熊　野　東　中　通　信 NO.17

自律した生徒の育成　　**令和８年２月４日号**

～思考，判断，実践～

熊野町立熊野東中学校　　校　長　　草本　泰宏

〒731-4213　安芸郡熊野町萩原一丁目２３番１号

TEL082-854-7111　e-mail：higasijh@piano.ocn.ne.jp

http://kuma7111.ec-net.jp/

東中 HPQR コード

第２回 コミュニティ・スクール講演会 兼令和７年度 PTA 教育講演会を開催しました！！

～救急専門医　認定産業医　田邊輝真(たなべ　てるまさ)さん～

２月２日（月）に本校体育館にて「熊野東中学校生徒の皆さんに夢や希望をもって、学校生活を元気に頑張ってほしい！」という思いで開催しているコミュニティ・スクール講演会の第２回と令和７年度ＰＴＡ教育講演会を兼ねて開催しました。

今回は講師として、田辺クリニック副医院長で救急専門医、認定産業医の田邊輝真（たなべ　てるまさ）先生をお迎えしました。

１　田邊先生のご経歴や活動されている内容

○医師であるお父様が地域医療に貢献する姿を幼い頃から見て育ち、現在は救急医、認定産業医、広島県フライトドクター等として働きながらご自身も地域医療に貢献している。

○地域によって死因究明の質に大きな差があることを課題に感じ、迅速に正確な死因究明ができる「死因究明センター」設立を目指して活動している。

○日本の高い死因不明率を問題視し、広島県が死体解剖率ワースト１位であることを踏まえ、ドラマ『アンナチュラル』に登場するような死因究明機関の実現を通して、遺族や社会に納得できる死因究明を提供できるように、合同会社　MONSHIN を設立して活動している。

２　田邊先生からのメッセージ

○現在、日本の死者は約 10%が病院外で亡くなっており、死因について警察の確認を要する死者が 2,800 人以上いるが、解剖を７人で行う等死因究明の環境は決して整っていない。そのため、遺族や社会に納得できる死因究明を提供することができていないことは課題だと考えている。

○また、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、経済活動がストップし自殺が多くなる中、命を救えない患者を多く見て、「どうすれば自殺を減らせるのか（どうすれば人は自分の人生をうまくコントロールできるようになるのか)」について、考えるようになった。

○自分が研修で訪れたケニアの首都ナイロビのスラム街は野蛮な雰囲気の街だが、人々は生き生きと暮らしている。現地の人から「日本は経済も発展し食べものも美味しいけれど、人々の笑顔が少なく自殺が多いよね。」と言われた。そんなナイロビのバーで次のような言葉が書かれていた。「A bad attitude is like a flat tire, you can’t go anywhere until you change it.」「悪い態度とはパンクしたタイヤのようなもの。交換しなければどこへも行けない。」ということわざで、悪い態度やネガティブな姿勢をもっていると、人生で前に進むことができないという意味である。この意味を考えて欲しい。（先生は「宿題にするから考えてね！」と言われていましたね。）

○日本人はもっとチャレンジする心をもった方がいい。チャレンジすると失敗もあるし間違いもある。上手くいかなくても自分を許してやる、しんどくて「もうダメだ」という衝動を乗り越える柔軟さを心にもつことが大切だ。サッカーにおいて、空中にあるボールの勢いを体の柔らかい部分で

吸収し、足元に落としてコントロールする技術を「クッションコントロール」と言うが、心のクッションコントロールをできるようになってほしい。そういう姿勢で取り組めば、できないことをできるようになる。**恥をかいてもやってみて、失敗を柔軟に受け入れ、成功につなげて欲しい。**

※前回の講演会で森本ケンタさんにいただいたメッセージ

挫折を恐れず、色んなことにチャレンジして何度でも起き上がって欲しい！！

にもつながりますね！！

3 質問への回答(今回もたくさんの質問が出ました)

① 命を扱うお仕事をされていて、プレッシャーはないですか？

→もちろんあります。家族の心配な思いが伝わってくるけれど患者を助けられない時もある。仲間とみんなで対応しています。

② 医師になるには何を勉強すればいいですか？

→色々な道があります。やりたい事は何か？自分が何をしたいのか？それをしっかり考えてください。

③ 救急医として人の命を助けるためにまずすることは？

→患者はどんな状況で運ばれてきたのか、情報を集め早く適切な処置をすることが大切です。

④ 今の目標はありますか？

→亡くなった方の死因を体を切らずに納得できる形で分かるようにしたい。(遺族の思い等を大切にするため)

⑤ アメリカは精神病患者が多く自殺が少ない。日本は逆だと聞きました。どちらがいいと思いますか？

→中学生でこういうことを考えている視点がすごい！どちらがいいかはわかりませんが、両方防ぎたいと思います。

⑥ 処置に失敗した時、どう切り替えますか？

→感情でなく事実をチームで振り返り、何ができて何ができなかったのかを明らかにすることで、次によりよい対応ができるようにします。

⑦ 救助する時に一番難しかった処置は何ですか？

→答えることが難しいですが、患者の情報が無い時が難しいです。

⑧ （田邊先生はサッカーをしてきたので）サッカーと医療で共通点はありますか？

→コーチングが大切なこと、1人ではできないこと、コミュニケーションが大切だということかな？

最後に生徒代表が、「命の現場で使命を背負いお仕事をされていることがわかりました。安心して生活できるのは先生方のおかげです。」とお礼の言葉を伝えて花束を贈呈し、土屋会長さんが「チャレンジすることも大切だし、真剣にチャレンジする人を本気で応援する仲間であってほしい。」とエールを送ってくれました。

＜生徒のお礼状から＞

○まず挑戦してみることや自分のことを理解することが大切だとわかりました。

○私も何事にも挑戦して失敗していきたいと思います。

○私はいつも「もう少しこうしておけばよかった」と後悔ばかりしていました。やらないよりやって後悔した方がいいとわかりました。

○後悔することがあってもその原因を見つけたり、新しい考えを見つけることが重要だと思いました。

○まずは恥より動くこと。恥をかいても笑わないこと。なかなかできないけど大切だと思いました。

田邊先生は中学生が興味をもってくれるように色々と工夫しながら話をしてくださっていました。救急医療というとても専門性の高い特別な立場だからこそ、仕事をしながら感じ考えていることを中学生の皆さんに伝えたいと思ってくださっていることが伝わってきました。

皆さんの質問も命に関わるお仕事をされている事に注目したものが多かったですね。「できないことができるようになるためには失敗するのが当然だし、恥ではないんだ！」と考えることができるようになった人が多かったようです。チャレンジする勇気を与えてもらえる講演会だったと思います。これからも失敗を恐れず目標達成に向けて進んでいこうね！